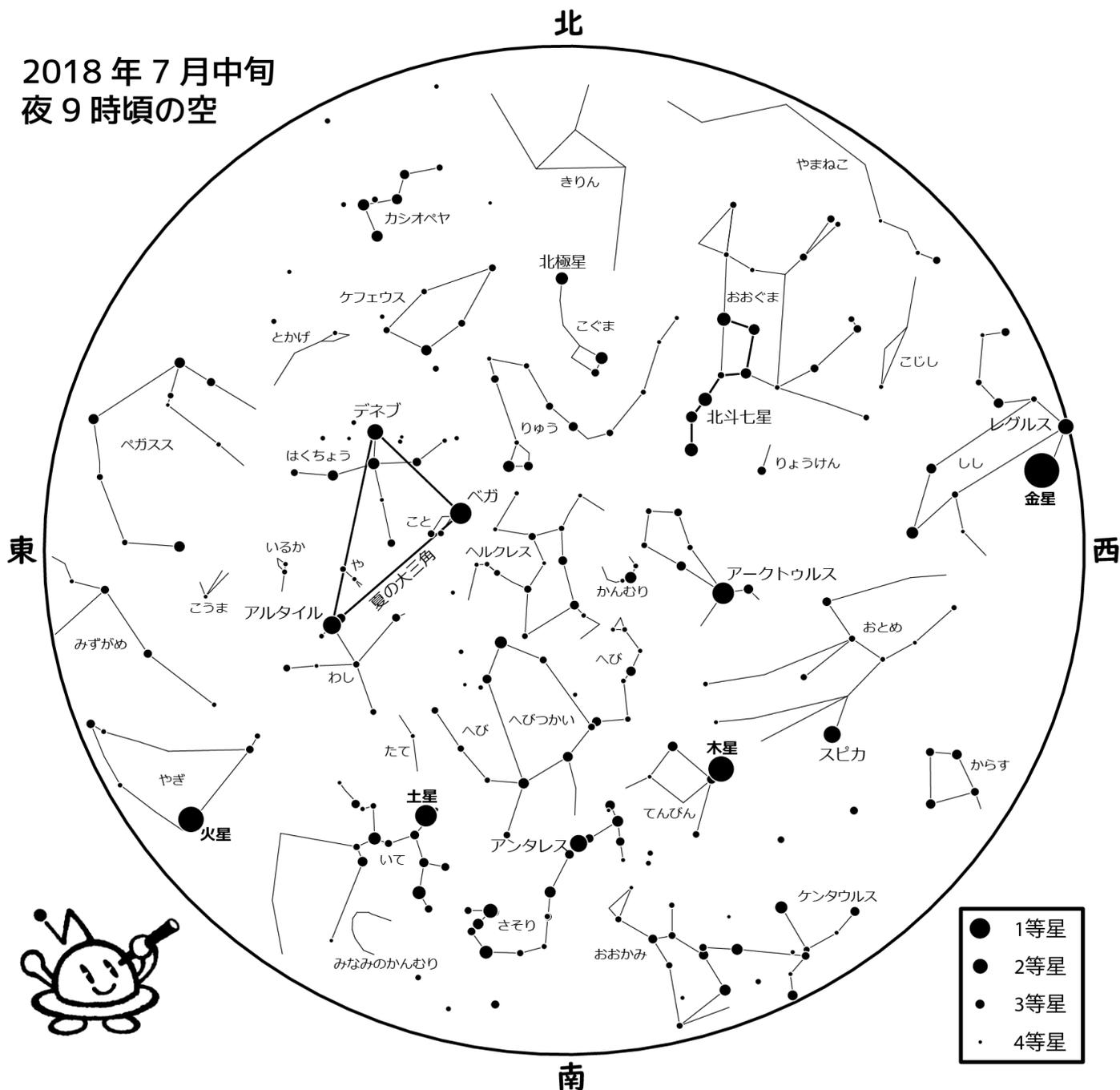


阿南市科学センター 7月の星空案内

2018年7月中旬
夜9時頃の空

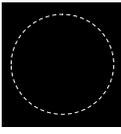


7月といえば七夕の季節。夜空を見上げれば、七夕伝説にゆかりのあること座のベガ(織姫星)、わし座のアルタイル(彦星)が輝き、これら二つの星とはくちょう座のデネブを結べば、夏の大三角をつくることができます。一方で、南の空にはさそり座が見え、その心臓部分にはアンタレスという星が赤く輝いています。今年の夏は、アンタレスの西側には木星、東側には土星がならび、南の空が大変賑やかに見えることでしょう。さらに、日没後西の空を見れば金星、夜9~10時近くになれば火星が南東よりの空で見えます。しかも火星は7月31日に約15年ぶりに地球と大接近するため目が離せません！

天体観望会の予約・お問い合わせ先

阿南市科学センター 徳島県阿南市那賀川町上福井南川淵8-1 電話 0884-42-1600

◇ 月の満ち欠け

名称	下弦の月	新月	上弦の月	満月
形状				
見える日	7月6日	7月13日	7月20日	7月28日

◇ 惑星について

名称	水星	金星	火星	木星	土星
見どころ	日没後、西のごく低空で見える。	日没後、西の低空に見える。 7/16は三日月と接近。	夜9～10時以降、南東の空で見やすい。	前半夜から南西の空で見える。	夜半過ぎから南東の空で見える。
明るさ	約0等	約-4等	-2.2→-2.8等	約-2.2等	約0等

◇ 約15年ぶりの火星大接近！

2018年夏は約15年ぶりに地球と火星が大接近する現象があります。最接近日は7月31日(火)となり、距離にして約5760万kmまで火星が接近します。火星の大接近は2003年以来で(図1)、今年以降次の大接近は2035年まで先となります。なお火星と地球の接近は約2年2カ月おきに起こりますが、火星の軌道が大きな楕円を描いているため、毎回接近時の距離が異なります(図2)。

図3は望遠鏡(同倍率)で観察したときにおける、火星の見かけの大きさの変化です。火星は6月中旬頃から土星の本体なみの大きさに見え、最接近日には土星本体よりも25パーセント大きく観察できます。ところで、「最接近日にしか火星は大きく見えないの?」という疑問をお持ちの方もいるかもしれませんが、そんなことはありません。最接近日の前後2週間においても、火星の大きさはわずか3パーセントしか変化しませんので、もし7月31日のお天気が悪くても、前日や翌日も火星の大接近を十分楽しむことができるでしょう。



図1 2003年の火星大接近

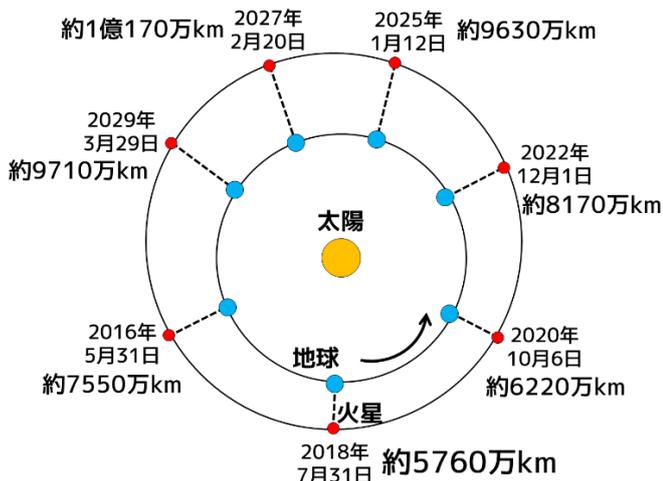
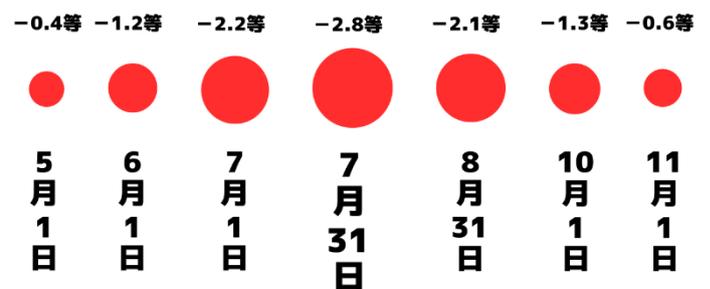


図2 地球と火星の接近図



おなじ倍率の望遠鏡で見たときの土星の見かけの大きさ

図3 火星の見かけの大きさの変化